

研修利用の充実事業

「第1回・第2回利用団体のための説明会」

1. 趣旨

国立赤城青少年交流の家を利用する団体の引率者が、施設の利用方法や各活動プログラムの内容を理解するとともに、実際にプログラムの一部を体験する。

2. 事業の概要

(1) 期日

第1回：令和4年4月24日（日）、25日（月）

第2回：令和4年5月6日（金）、7日（土）

(2) 参加者

①参加対象

第1回：令和4年度利用団体（5～7月）の引率者

第2回：令和4年度利用団体（7～9月）の引率者

②参加人数と内訳

第1回：4月24日 35名

（小学校13校、中学校1校、小中一貫校1校、合計15校）

4月25日 14名

（小学校6校、中学校8校 合計14校）

第2回：5月6日 4名

（小学校1校、中学校3校 合計4校）

5月7日 26名

（小学校7校、中学校2校 合計9校）

3. 企画運営のポイント

- (1) 利用説明では、活動計画書や食事申込書など、提出書類の書き方を丁寧に説明することでスムーズな施設利用につなげる。施設利用では、YouTube動画を活用して利用団体が活動内容をイメージできるようにする。
- (2) 参加者を2グループに分け、事前打ち合わせと施設見学を同時に進行することで、事前打ち合わせの時間を多く確保できるようにする。
- (3) 施設見学では、所内を実際に歩き、使用方法やコロナ対応などのポイントを具体的に伝える。
- (4) 活動体験では、利用の多い野外炊事の火起こし体験と、キャンプファイヤーとキャンドルファイヤーの準備と片づけを行い、安全管理の点を踏まえた体験をする。
- (5) 昼食は食堂での食事をすることで、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた食事の仕方を実践していただき、当日の活動に生かせるようにする。

4. 日程

時間	午前	午後
内容	開会行事 施設利用説明 施設見学 事前打ち合わせ	昼食 施設見学 事前打ち合わせ 火起こし体験 キャンプファイヤー、 キャンドルファイヤー準備、片づけ 質疑、応答

5. 主な活動内容



「開会行事」



「主催者挨拶」



「施設利用説明」



「施設案内」



「火起こし体験」



「事前打ち合わせ」

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

① 第1回 (49名)

満足41名 (84%) やや満足8名 (16%) やや不満0名 不満0名

② 第2回 (30名)

満足27名 (90%) やや満足3名 (10%) やや不満0名 不満0名

(2) 参加者の声

- ・ご丁寧に対応していただき、ありがとうございました。
- ・施設等の理解のみでなく子供たちへの指導の部分までわかる説明会でした。
- ・個別に事前打ち合わせの時間が設けられていたのがよかったです。
- ・素早く活動できるよう事前の準備や片付けをしてくださってありがたかったです。
- ・一つひとつ丁寧に教えていただき、わからなかったことがわかったり具体的にイメージしたりすることができてよかったです。実際に体験できたことを子供たちの指導に生かしたいです。

(3) 成果

- ①施設利用の説明では、事前打合せやプログラム相談で質問の多い、新型コロナウイルス感染症対策の取組や提出書類（活動計画書や食事申込書など）の書き方などを始めに説明することで、参加者にとってわかりやすい説明会となるような工夫ができた。
- ②施設見学と事前打ち合わせを午前と午後のグループに分けることで、学校団体ごとに個別の事前打ち合わせの時間を十分に確保することができた。
- ③プログラム体験では、「野外炊事」「キャンプファイヤー」の薪の組み方や火起こしの仕方について行うことで、団体からの問い合わせや質問事項の多いプログラム体験をしてもらうことができた。また、けがや事故の多いポイントなども説明することで安全管理の意識を高めることができた。
- ④休日と平日の開催をすることで、学校行事や予定に合わせた開催をすることで、参加しやすい日程調整を行うことができた。

(4) 課題

- ①事前打ち合わせや、提出書類の書き方などの説明がメインとなったため、「登山プログラムを体験できるとよかった。」という要望もあった。下見を勧めたり、登山についての説明の時間を充実させたりするなどの工夫も必要である。
- ②新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、行事の縮小やキャンセルが相次ぎ、引率の職員自身がプログラムの体験不足という事態が増えた。説明会も行いつつ、同時に各団体への個別相談や事前打ち合わせを充実するなどの実態に応じたフォローも必要である。

担当 主任企画指導専門職 渡邊 秀幸